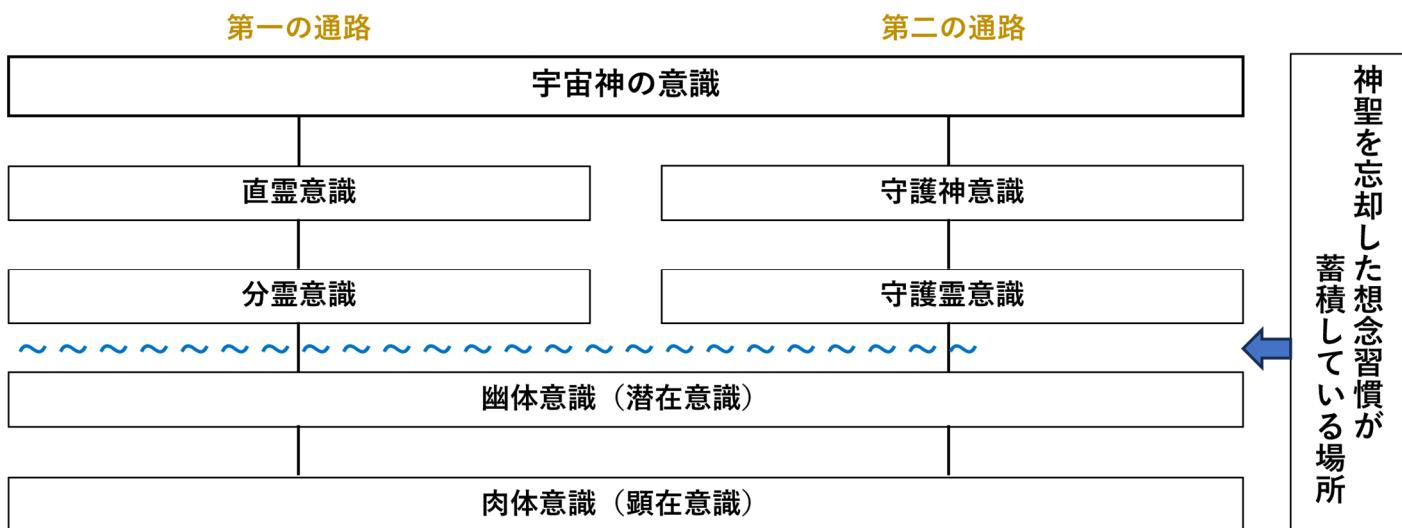


メールの冒頭の文

今週は、「神聖の視座から観た病気とは?」「神聖の視座から観た老化とは?」「神聖の視座から観た豊かさとは?」「神聖の視座から観た幸せとは?」「神聖の視座から観た家族とは?」のように、神聖の視座から自分自身を見つめ直し、自己の内部におけるいのちの繋がりを俯瞰してまいります。

はじめに、人間の魂の構造について振り返ります。

[人間の魂の構造]



上記のように、人間の意識は、大別して七つの要素によって成立しています。しかしこれまで多くの人が自己として認識していたのは、一番下の肉体意識のみでした。もっと正確に申しますと、これまでの地球人類は、幽体に蓄積された過去世から今日に至る神聖を忘れた想念習慣に支配されて生きていました。そのため、さらに内奥にあるその他の五つの要素を発揮することができずにいたのでした。

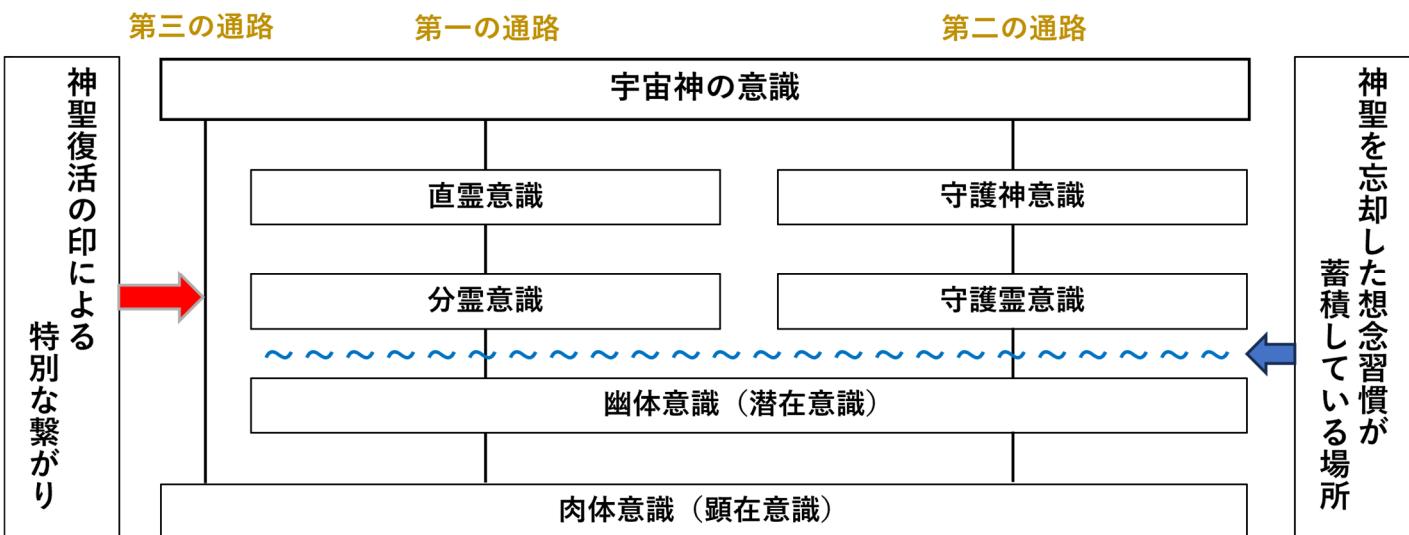
どうしてそのようになっていたのかと申しますと、幽体と靈体の境（自分の心の奥にある幽界の空）で、自己限定や自己否定の想いが黒雲となって遮(さえぎ)っていましたためです。そのため、心のなかに肉体意識と幽体意識（顕在意識と潛在意識）しか無いような状態になり、永い間、生命の根源を忘れ果てたような状態になって、私たち人類は永い間、迷いの世界を彷徨っていたのでした。

「守護靈意識」と「守護神意識」は、生命の根源へ回帰する道を忘れた人類への恩寵でした。守護靈・守護神意識は、『肉体－幽体－守護靈－守護神－宇宙神』のように生命の根源へ繋がる”いのちのバイパス”です。そのもう一つのいのちのバイパス道は、私たち人間が無限の能力を顕現し、

七つの意識を統合したものとして覚醒させるための道として宇宙神により配置されたルートでしたが、その方法と難しかったというのが、それを実践してきた多くの人々の実感でした。

しかし 2017 年 7 月 2 日、『神聖復活の印（当初は神聖復活目覚めの印）』が地上に降りたことで、その様相が一変しました。それは、この印を組むことで私たちひとりひとりが、いのちの源と直接繋がることが可能になったためです。（言わずもがなですが、守護の神靈の助けがあって初めて可能になっていることです）

『神聖復活の印を組む人の魂の構造』



神聖復活の印が地上で組まれるようになって以降は、どんなに自己限定や自己否定の残っている人が組んでも、この神聖復活の印がもつ神秘なる力により、上記右側の二つの通り道を開通していくなくとも、おぼろげながら神聖意識を思い出すことが可能になりました。「おぼろげながら」と申しますのは、それだけでは人格の完成・魂の統合にはほど遠いからです。

そこで大切になってくるのが、”守護靈・守護神と一体化して生きる”という従来の方法を、神聖復活の印の力を借りて本腰を入れて行なうことです。神聖復活の印を組みながらの日々にあっては、守護靈・守護神との一体化をやすやすと果たし得ます。なぜ断言するのかといいますと、生命の根源と直結する道が開かれたことにより、今何をすれば守護靈・守護神と一つになれるのかを自己の直観として得ることが可能になったからです。

その一番簡単で具体的方法は、一日中守護の神靈に感謝して生きることです。それを広げて、すべての人に感謝して生きることです。それをさらに広げて、どんなことにでも感謝しながら生きることです。（演技でもよいから感謝し続けていると本ものの感謝になります。必ずです。）

そうすると、『肉体－幽体－守護靈－守護神－宇宙神』の第二の通路が開かれます。またこの第二の通路が開くと、『肉体－幽体－分靈－直靈－宇宙神』とある第一の通路も自動的に開いてまいります。それはいつの間にか、です。それは、仏教用語の「漸悟(ざんとく)」「頓悟(とんとく)」で申しますと、「頓悟」の在り方です。

そのように、魂内部における種々の要素の繋がりを意識して生きるようになりますと、知らない間に神聖の視座から自他を見つめ、世界を俯瞰している自分に気が付くようになります。

そうなると、冒頭に書いた「神聖の視座から観た病気とは?」「神聖の視座から観た老化とは?」「神聖の視座から観た豊かさとは?」「神聖の視座から観た幸せとは?」「神聖の視座から観た家族とは?」等々の回答が、意識内部から自然にわかるようになりますと、すべての状況や出来事の本質的な意義を見出すことが出来るようになります。(それを本当に実践するための助けとして、文末に『凡夫易行五ヶ条』を記載します)

土曜日の夜は、自己の内部における霊系統の縦の繋がりを意識していのちの光を発光し、次元の垣根を越えた光を放ってまいりましょう。

—終わり—

凡夫五ヶ条

一、肉体の自分では何事もなし得ないのだ、と徹底的に知ること。

(これが本当にわかったら悟ったと同じだがね、と先生はおっしゃった)

二、なんて自分はダメなんだろう、と思ったら、すぐそれは過去世の因縁の消えてゆく姿と思い、世界平和を祈ること。

三、たゆみなく常に祈ること。

四、何事も自分がやるのでなく、神さま（注：守護霊・守護神）がやって下さるのだと思うこと。

五、朝起きたら祈り、夜ねる前、少し時間をかけて祈れ、そうすると自然に臍下丹田に息がおさまる。

土曜夜の始まりの話

皆さん、こんばんは。夜のZoom祈りの会を始めます。

昨日のメールのなかで、私たちが心の中での“いのちの繋がり”を自覚する方法として、守護霊・守護神さまとの一体化を、本腰を入れて行なうことが、神聖の視座を自分のものにする一番の近道であることを書きました。

そしてそのための具体的な方法として、すべてに感謝する生活をお勧めしました。また、凡夫五ヶ条を紹介しました。その背景には、私の個人的な実体験がありますので、そのお話をさせていただきたいと思います。

2007 年の『新年の指針』で、私は巨大な鉄ハンマーで頭を殴られるような衝撃を受けました。そこに書いてあったのが、次のような内容だったからでした。「業想念が多すぎる。一生をかけて逆転せよ。」

ひとに笑われ反発してみたものの、本当に図星な事が書かれていたので、その先は何も言えませんでした。その日から三年間は落ち込んだような精神状態で過ごしていましたが、2010 年の秋に半年間の広島出張があった際に、広島の地で守護神さまからの天啓を受けました。

それは次のようなことでした。『すべてに人に「有り難う御座います」と言え』、『起きている間中の呼吸をユッタリとしたものとせよ』。それは、脳裡に響き渡る非常に強い無声の響きでした。

そのとき私は、『呼吸をゆっくりすることはやるけれど、すべての人への感謝は無理だ。出来ない。』と返事しました。それは、当時の私が不平不満の塊で、なんでもかんでも他者(ひと)のせいにする、なんにでもかみつくという、絵に描いたような、“ろくなもんじゃない人”だったからです。

そういたしましたらさらに強く、有無を言わせない響きで、『つべこべ言わずにやれ。心の中で「なんでこんな奴に感謝しなきゃいけねえんだよ」と悪態をつきながらでもいいから、顔はにこやかに、声は柔らかく、「有り難う御座います」と、どんな人に対しても言いなさい。』と、最後はやさしく諭され実行し始めました。

当時の私は、自然や生物への感謝はしていましたが、関わりのある人への感謝がまるで出来ていなかったので、守護の神靈はそこを強化しようとされたのだと思います。そのうち、ただの役者が役の人物そのものになり、おかげさまで今では、感謝の響きに包まれ、守護の神靈を身近に感じながら、気付きの止まない生活をしております。

本日は、守護靈・守護神さまとの絶対的な繋がりを、心からの「有り難う御座いますの言靈」を丁寧に響かせることによって完全開通して、地球にかかるすべての状況や、それらに対する様々な想いを宇宙から俯瞰するように、非難・非難・評価の想いさえも流れる雲のように見つめながら、次元の垣根を越えたいのちの源の光を放ってまいりたいと思いますので、よろしくお願ひします。

それでは時間になりましたので、世界平和の祈りを日本語と英語で行ないます。三分半の CD を使って行ないますので、眼を閉じて神聖の視座に焦点を合わせてお祈りください。私が「はい、ありがとうございます」と申し上げましたら、目を開けてください。それでは始めます。

—終わり—